

熊本市における障がい者施策について

〈平成28年8月 障がい保健福祉課〉

【障がい者数の推移】	〈H23〉41,573人	〈H24〉42,585人	〈H25〉43,963人	〈H26〉44,653人	〈H27〉45,446人	
【障がい者支援関係予算の推移】	〈H23〉11,243,795千円	〈H24〉13,929,708千円	〈H25〉15,277,018千円	〈H26〉16,415,079千円	〈H27〉17,261,749千円	〈H28〉18,462,843千円

<p>【障がい者施策の現状及び懸案事項等】</p> <p>障がい者プラン【基本理念】自立と共生の地域づくり</p> <p>【重点施策1】生涯を通じた支援のシームレスプロジェクト(福祉、保健、医療、教育ほかあらゆる分野との連携) 《成果指標》相談支援事業所の認知度 39.2%(平成26年度)⇒60%(平成30年度)</p> <p>【重点施策2】社会参加プロジェクト 《成果指標》熊本市が障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思える割合 34.0%(平成26年度)⇒45%(平成30年度)</p>

【分野別施策】	【主な細事業】	予算額 (単位:千円)	【障がい者施策推進協議会等での意見】	【懸案事項等】
<p>○は主な取り組み</p> <p>1 相互理解の促進と市民参加の活動 ～啓発・広報・ボランティア～</p> <p>(1) 偏見や差別を取り除き相互理解を深める</p> <p>○ 障がい者週間等を活用した啓発イベント</p> <p>○ 障がい者サポーター制度の普及</p> <p>○ 障がい者施設商品コンクールの実施</p> <p>(2) 学校教育や職場研修での啓発</p> <p>○ 障がい者サポーター研修、障害者差別解消法研修</p> <p>○ 夏休み障がい児・家族支援事業等の体験研修</p> <p>(3) ボランティア活動の促進</p> <p>○ 障がい者サポーター登録</p> <p>○ 精神保健福祉ボランティア養成講座</p> <p>2 生活の場を拠点とする利用者本位の支援 ～生活支援～</p> <p>(1) 施設等入所から地域生活への移行支援</p> <p>○ 精神障がい者地域移行支援部会等を通じた地域生活移行の推進</p> <p>○ 社会福祉施設整備費助成等によるグループホーム整備を促進</p> <p>○ 地域生活支援拠点等の整備</p> <p>(2) 相談・支援体制の充実</p> <p>○ 障がい者相談支援センターによる福祉サービスの利用援助等</p> <p>○ 障がい者自立支援協議会による情報共有や連携の強化</p> <p>(3) 障がい児支援の充実</p> <p>○ 子ども発達支援センターによる初期療育活動支援やネットワーク構築</p> <p>○ 地域療育等支援事業を実施</p> <p>○ 障害児通所支援事業を実施</p> <p>・児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援</p> <p>(4) 障がい者の権利擁護</p> <p>○ 市長申立や報酬助成による成年後見制度の利用促進</p> <p>○ 市民後見活動促進のための法人後見体制を構築</p> <p>○ 障がい者虐待防止センターによる障がい者虐待への対応</p> <p>○ 障がい者虐待防止連絡会議の実施等によるネットワーク構築</p> <p>○ 障害者差別解消地域協議会の実施等 ”</p> <p>(5) 在宅福祉サービスの充実</p> <p>○ 障害福祉サービス等の各事業を実施</p> <p>・ 訪問系(居宅介護等)及び日中活動系(生活介護等)事業</p> <p>・ 地域生活支援事業(移動支援、日中一時支援、訪問入浴)</p> <p>※利用者負担額について独自軽減</p> <p>(6) 精神障がい者の社会復帰・社会参加支援</p> <p>○ 精神保健福祉普及週間や自殺予防週間を活用した啓発事業</p>	<p>障がい者理解促進事業</p> <p>障がい者差別解消推進経費</p> <p>夏休みの障害児・家族支援事業</p> <p>精神障害者地域生活移行支援事業</p> <p>共同生活援助給付費</p> <p>計画相談支援給付費</p> <p>相談支援事業経費</p> <p>障がい者相談員設置経費</p> <p>障害児相談支援給付費</p> <p>児童発達支援給付費</p> <p>放課後等デイサービス給付費</p> <p>保育所等訪問支援給付費</p> <p>夏休みの障害児・家族支援事業 (再掲)</p> <p>成年後見制度利用支援事業助成</p> <p>成年後見法人後見支援事業</p> <p>障がい者虐待防止対策支援事業</p> <p>障がい者差別解消推進経費 (再掲)</p> <p>居宅介護給付費</p> <p>生活介護給付費</p> <p>日中一時支援事業経費</p> <p>地域活動支援センター(I)運営助成</p> <p>利用者負担軽減経費</p> <p>地域自殺対策緊急強化事業</p>	<p>(単位:千円)</p> <p>1,700</p> <p>200</p> <p>7,400</p> <p>4,194</p> <p>825,000</p> <p>172,000</p> <p>119,951</p> <p>502</p> <p>95,000</p> <p>356,000</p> <p>702,000</p> <p>3,000</p> <p>(再掲)</p> <p>2,378</p> <p>5,400</p> <p>3,200</p> <p>(再掲)</p> <p>336,000</p> <p>3,325,000</p> <p>42,000</p> <p>58,800</p> <p>35,000</p> <p>4,000</p>	<p>(施)は施策推進協議会、(自)は自立支援協議会、(復)は熊本地震による復興座談会</p> <p>(施)「市民協働」という観点から、商品コンクールの効果的な取り組みが必要。</p> <p>(自)障害者差別解消法において障がい児保育や学校現場でも合理的配慮等について検討が必要。</p> <p>(自)地域移行・地域定着支援の利用実績が少ない。サービスを使いやすくするための議論が必要。</p> <p>(自)高齢期を迎える精神障がい者の病院退院後の支援体制について検討を始めるべき。</p> <p>(自)親亡き後を考えた場合、障がい者の兄弟・姉妹の家族会設立が必要。</p> <p>(施)平成29年度の計画相談増加に対し対策が必要ではないか。</p> <p>(施)高齢障がい者へのサービス提供について時期計画に盛り込んでいただきたい。</p> <p>(自)熊本市に必要な基幹型相談支援センターのあり方を検討する必要がある。</p> <p>(自)相談支援専門員の資質に格差。スキルアップ研修等をしてはどうか。</p> <p>(自)セルフプランの活用を検討してはどうか。</p> <p>(自)さまざまな障がい当事者から直接ニーズを聴く機会が必要。</p> <p>(自)母子保健の延長で保健師が関わりコーディネータ的役割をもっと担うべき。</p> <p>(施)報酬助成等の対象を市長申立に限定せず拡充が必要。</p> <p>(復)避難所にいる人にしか物資を与えないケースは障がい者への理解が進んでいないことを実感。</p> <p>(復)避難所にはいけない、物も届かない、どなたかサポートできる人がいると助かる。</p> <p>(復)発達障害児等の支援として、福祉子ども避難所の設置が必要。</p> <p>(自)高齢化対策として、将来を見据えた障がい者施設の整備や高齢者施設との連携が必要。</p>	<p>地域生活拠点等の整備</p> <p>計画相談支援件数の増加</p> <p>基幹型相談支援事業所の設置検討</p> <p>熊本地震における課題への対応</p> <p>・避難所における対応</p> <p>・被災した社会福祉施設等の復旧等</p> <p>利用者負担独自軽減策の見直し</p>

(2) 一般就労への移行と定着・継続への支援 ○ 「熊本市障がい者就労・生活支援センター」事業を実施 ○ 障害福祉サービス等の各事業を実施 ・就労系(就労移行支援事業、就労継続支援A型事業) ○ 知的・精神障がい者を嘱託職員として雇用(チャレンジ雇用)【再掲】	障がい者就労・生活支援センター事業	17,500	(自) 就労しても長続きしない。雇用側にも原因があるのではないか。
	就労移行支援給付費	336,000	(施) 全国の中でもA型事業所が多く質の担保についての対策が必要ではないか。
	就労継続支援給付費	2,738,000	(自) 特別支援学校卒業後のすまいの場や就労移行支援事業所、A型、B型が不足している。
	障害者雇用関係経費	9,433	
(3) 福祉的就労への支援 ○ 障害福祉サービス等の各事業を実施 ・就労系(就労継続支援B型事業) ○ 障害者優先調達法に基づく受注機会の拡大 ○ 施設利用者の工賃向上の支援	商品力向上等支援事業	1,200	
(4) 移動手段の支援 ○ おでかけバス券を交付(平成28年度からおでかけICへ移行) ○ 重度障がい者へのタクシー助成券の交付 ○ 燃料費、自動車運転免許費、自動車改造費等を助成	おでかけICカード関係経費	193,400	(施) おでかけバス券の廃止は差別解消法にも抵触。存続について再考願いたい。
	心身障害者福祉タクシー経費	58,150	
	燃料費助成事業	6,750	
	障害者運転免許取得費助成	1,600	
	身障者自動車改造費助成	2,500	
(5) スポーツ・文化の推進 ○ 障がい者大運動会等の継続的な実施 ・くまもと障がい者スポーツ大会 ・熊本市障がい者大運動会 ・障がい者の芸術活動支援(アールブリュット作品展)	全国障害者スポーツ大会経費	10,700	
	熊本県・熊本市スポーツ大会経費	2,510	
	障害者体育大会経費	570	
7 情報提供の充実 ～情報・コミュニケーション～			
(1) 情報バリアフリーの推進 ○ 手話通訳者による窓口対応 ○ 「ふくしのしおり」による窓口での情報提供 ○ 点字版市政だよりや音声版市政だよりの発行	手話通訳者設置等経費	13,858	(施) 災害時要援護者登録に関し視覚障がい者に情報が伝わっていないのではないか。
	手話通訳者等派遣経費	(再掲)	
	要約筆記者等派遣等経費	(再掲)	
			(自) 生涯を通じたあらゆる分野との連携「社会参加の促進」が実現しているのか検証が必要。

おでかけIC移行後の利用者への影響